



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

DIALOGUE Governor+ (No.11)

茨城県境町 町長 橋本 正裕氏

ガバナー公式訪問報告 (ひたちなかRC)。
コロナ禍の影響で学びの場所を奪われてしまった青年たちに

ガバナー公式訪問報告 (水戸好文RC)

ガバナー公式訪問報告 (水戸南RC)

ガバナー公式訪問報告 (茨城ロータリー E クラブ)

ガバナー公式訪問報告 (古河東RC)

第1分区 IM 報告

第4分区 IM 報告

第3分区 IM 報告

第5分区 IM 報告

第1分区豪雨災害時におけるポリオ募金活動

第3分区ロータリーデーの開催報告書 (ポリオ根絶イベント)

第11回水戸アールブリュット展を終えて

米山奨学生終了式スピーチ

地区チーム研修セミナー報告

2024-2025年度会長エレクト研修セミナー報告

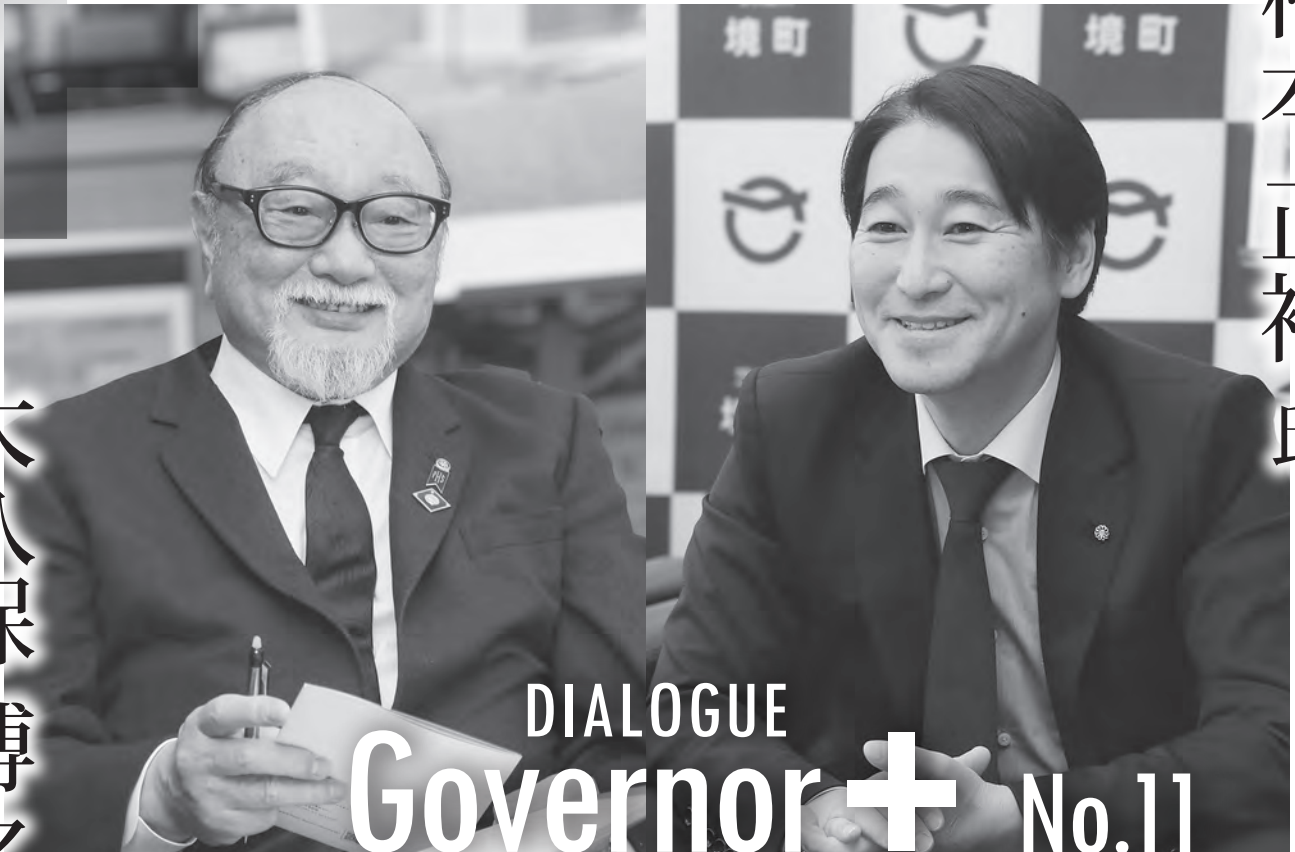
2月会員増強報告

新会員紹介・訃報・スケジュール

コラム 私の思い・編集後記・

茨城ガイドブック「見て覧 (ミテラン)」入手方法について





DIALOGUE Governor + No.11

住み続けられる町を目指して

＜大久保ガバナー＞ ふるさと納税が県内No.1、日本で16位ですが、そのきっかけは何でしたか。

＜橋本町長＞ 普通は補助金カットとか我々の報酬カットとかそういう行革をします。でもそれをするすると住民が引っ越してしまいます。僕が10年前に就任した時には収入を増やそう、しっかり計画を立ててやれば変わるだろう。その中の一つがふるさと納税でした。

＜大久保＞ お勧めのふるさと納税の返礼品はありますか。

＜橋本＞ 特にはありませんが、今までの行政にはマーケティングとかマネジメントが欠けていました。ふるさと納税であれば、何がどこで売られているか、どれぐらいの寄附が集まっているかをリサーチした結果、毎日使うものか高級品のどちらかなのです。毎日食べるものとか毎日使うものだと米ですよ。だからお米で勝負しようと思って始めました。お米の寄附額で言うと全国でも5本の指に入るぐらいではないかと思っています。

＜大久保＞ ウルフギャングの食事券というのがありますが、その発想も町長ですか。

＜橋本＞ ふるさと納税に力を入れた当時は規制がなく、トップセールスで営業して、人気のあるウルフギャングを出していた。途中で規制が入ったので、道の駅を増築した際に鉄板焼を作り、それをウルフギャングに替えて食事券を出そうという発想でやり出しました。

＜大久保＞ ふるさと納税で稼いで、出を制するより入るを図るという積極的な姿勢ですね。

＜橋本＞ そうですね。経済と一緒に、経済規模が大きくなると景気がよくなるし、所得も上がらないわけです。だから、我々は経済を回すほうに舵を切ったということです。

＜大久保＞ 町の住宅政策で、20年住み続けると住宅をくれるという話を聞きました。

＜橋本＞ 全国を回って、境町に決めた人になぜ境町に決めたかと聞いたんです。そうしたらまずは仕事、今やっている仕事で引っ越したいと言うのです。まずはこれが1点。もう一つは住居です。境町には10年前はオートロックのマンションがありませんでした。若い家族はオートロックは当然ですよ。でもオートロックで鉄筋コンクリートで3LDKのマンションがあ

りませんでした。ですから町外に住んだ訳です。なのでそれをまず作ろうとって、3階建ての3LDK70平米、エレベーター付、オートロック付、追い焚き付、宅配ボックス付で、春日部で借りると家賃12万円～15万円の物件をうちは58,000円で出しました。金額を安く、さらに近隣から呼び込もうとしたのが住宅政策の最初です。そして次は戸建てにしていこうと、戸建てで20年住むとあげてしまうという施策を始めました。今年度で言うと27件募集をかけました。何件応募が来たと思いますか。

＜大久保＞ 50件ぐらい？

＜橋本＞ 230件です。一番遠いのは海外です。仕事で赴任し、日本に戻る際にどこがいいか調べた結果、境町がいいと。沖縄、福島、山形からもありました。普通だったら境町から出て駅のある町に家を買う人はいますよね。それが家売って境町に越して来る人が出ています。雇用、住宅、教育、子育て支援がよくなってきたと分析しています。住宅ですが上下階で約30坪、ベランダも屋根付、トイレはウォシュレットで上下階に1個ずつ、上に3部屋あり、下は1LDKですが月58,000円です。こちらは土地50坪の建物ですが25年住むともらえて、固定資産税も25年かかりません。普通だったらお金を借り、利息もかかるのですがそれもかかりません。若い人たちが住みやすい仕組みにはなっています。

＜大久保＞ 教育政策についてですが、英語に力を入れているということですね。

＜橋本＞ 名だたるいいところは全部見てこいと言いました。ガバナーの学校とつくばの小中一貫校の春日学園も行きました。台北にあるリーロイという私立学校では北京語と英語で小学校3年生が我々に通訳してくれます。それを目の当たりにして、このままでは日本の子どもは置いていかれてしまうということで始めたのが今の境町の教育です。

＜大久保＞ 子育て支援の点ではどうですか。

＜橋本＞ 30万世帯にチラシを入れます。近隣・近隣の市町村にチラシを30万部配ります。今はSNS全盛ですが紙媒体は効き目があり、これを見た親御さんたちがお子さんたちに、こういうのをやっている町がある、ここどうだと言ってチラシを持ってきます。それによってPTAとか地元の議員に話がいくので、市役所の職員は大変です。境町がこんなことをやっているのにはうちはやらないのかと言われるのですが、首長さんたちとは仲がいいので、今度境町でこう

いうチラシを入れますよ、いいですかと聞いて、いいよと言ってくれたんです。効果はあって、住宅政策、さらに英語、その他に給食費が無料とか、ホノルルへ無料でホームステイができたり、ホノルルの小中学校と姉妹小・中学校を作っているの、そこの子たちが境町にホームステイに来る。そしてホストファミリーをすることもできます。今までは各小中学校にプールがありました。でも維持費に年700万円程かかりました。だったら環境センターの温水プールへ連れて行けばと思ってやったのが10年近く前です。最初は大変でした。学校の先生が送り迎えの時間はどうするとか。でもやってみたら更衣室が男女別でよかった、草が浮いていたのが温水プールになってなくなった、秋でも授業をやれるとか子どもたちの反応がすごくよかったです。それから昔の分校があった所にスクールバスを出していたのですが、一昨年から2キロ以内は徒歩、2キロ外はスクールバスと変えました。無料です。そのことによって、今まで一人で通っていた子も乗せてあげられるようになり、安心感を生みました。それから、ALTを1校1人のところを3～4人置いています。普通だったら、小学校1年生、保育園に2人通っていれば年間に何十万円かかる訳です。でも、これが境町だったらゼロですよというふうな分かりやすい比較です。子育てには非常に多くの支援をしています。医療費も20歳までは学生であれば無料で、赤ちゃんが生まれた時に、おむつのクーポンを出したり、様々な補助を出しているので選んで頂いていますし、『田舎暮らしの本』によると、1万人以上の小さい自治体ランキングでは3本の指に入るところまで来ていますので、いろいろな方から認知して頂いています。境町は、最初から子どもを産んでくれではなくて、来てみたら、第3子を産むとこういう政策があるのか、これだけ補助があるのか、これだったら3人目を産んでみよう。だから今、境町は3人目、4人目のご家族が増えてきています。時間をかけてフォローもしていくというのが行政のこれからのあるべき姿かなと思います。

＜大久保＞ 境町では干しいももやっていますよね。

＜橋本＞ やっています。今、第二工場ができて、今度、丸干しができるんです。

＜大久保＞ その他にアート館がありますね。それから、カフェもあるし、道の駅もありますね。楽しいですよ。ちょっと行ってみようかとい

う気になります。

<橋本> 今までは境町に来ることが目的ではなかったのが、今は道の駅、隈研吾さんの施設、自動運転バス、BMX、スポーツ施設、それに飲食店、やっぱりおいしい食べ物と遊び場がないと来ないんです。隈さんと知り合ったことによって、街中を回遊するものをやろうとなったり、スポーツ施設も、アルゼンチンのホストタウンになったことによって、意図していなかったものを作ったら、良くなってしまった。普通は町の総合計画があって、その設計図に沿って作るのですが、僕たちは逆で、たまたま作ったら、点が線になり、面になってしまった。今ではふるさと納税で干しいもが5億円の寄附を生むようになりました。うちは道の駅の運営を担っていたのはある民間会社でしたが、その子会社にこういうのを作ってくれないかと言ってもやらないのです。言うことを聞かないということで、切替時に観光協会に替えたら、1年で1億5,000万円だった売上が2億7,000万円になりました。税理士に会社化してくれと言われて作ったのがまちづくり公社です。当時3人だった従業員が今は200人近くいますので、うまくいった例と思っています。

<大久保> 素晴らしいですね。

<橋本> 点を作って自動運転でつないで線にしたのです。24,000人の町ですから普通なら高速バスは出ないのですが、関東鉄道がJRと一緒に境町からやろうと1日8往復出して頂きました。その高速バスに自動運転をつないだのでここもまた膨らんでいきました。そこにハワイを模したカフェを作り、お肉も常陸牛と梅山豚があるので焼肉屋をやって、運営は坂東太郎さんに任せ、その結果が今に繋がり、さらには東京のお店のグループの回転寿司を境町に作って今年中にオープンします。だから、その会社が来年の初競りを落とせば、初競りマグロを境で食べられるようになる。さらには坂東太郎さんの鰻屋を作っています。食と交流人口で人が集まると、ここで集まろうとなります。境町の人は今までは下妻や古河で同窓会等をやっていたが、今は境町で集まって境町で食べるようになってきました。

<大久保> それを繋ぐバスをやろうと思ったきっかけは何だったんですか。

<橋本> 池袋で事故があったじゃないですか。あの時に免許を返納したいという人がいっぱいいました。どうしようかと考えていた時に自動

運転の記事を見たんです。自動運転バスは、3年間、90か所以上で、いろいろな実証実験をやっていたんですね。じゃあやろうと言って始まったのがこの事業です。境町というと、新しもの好きと言われますが、そうじゃありません。今ある仕組で、使えるものを置き換えて住み続けられるようにしよう。そこがポイントです。年配の方も体が動けるうちに、お子さんの所に引っ越して、病院の近くに引っ越そうとなります。それが境町でも起きていました。子どもたちが進学のタイミングで出て行って帰ってこないというのが普通ですよ。お年寄りの予備軍がその時点で引っ越し出した。何とかしなければいけないという中で考えたのが自動運転バスです。実際にやってみたら、1年間1億円、5年間で5億円という事業で始まりました。実際に補助金が出たり、運営会社の試算で年間10億円以上の効果があった。テレビ、マスコミ、ネットニュースに出た。ここに視察に来た。そういう意味では、それぐらいの効果はあったのかなと思っているので、投資は回収した。今までの自治体は、投資をして回収するという感覚がなかったと思うのです。なので、我々は道の駅を作っても焼肉屋を作っても家賃を頂いていますし、町が投資したものに対しては、家賃で回収するという仕組も作っていますので、そういう意味では、非常に特異な自治体だということは言えるのかもかもしれません。

<大久保> 稼ぐことも考えないと支出だけで終わり、持続性がなくなってしまう。

<橋本> そうなんです。今、大家で年間1億円といったらい会社です。だから、我々職員の給与は5%ぐらい上げているかな。僕が就任したときは、ラスパイレス指数は国の基準に対する指数が92%だったんですが、今は96%近いです。女性の活躍もそう。給料もそう。全方位でしっかりやっていく中で町が発展していくのが一番だと思います。

<大久保> スポーツ面でも活発な活動でテレビにも出ていましたね。

<橋本> そうなんです。東京五輪のコートを買いました。

<大久保> びっくりしました。そのほかにもサーフィンプールもあるし。

<橋本> 東京五輪のコートは仮設でした。しかもXゲームとかワールドカップとか五輪は、アーバンスポーツについては全てフランスのハリケーン社が作っているのです。そのハリケーン

でつくった常設型というのは境町にしかありません。五輪の時は仮設だったものですから、ハリケーンに、あれは売るとか聞いて、国に申請して買いました。そうしたら、後から東京都が欲しいとなったので、ハリケーンに、我々はいいから、東京都がレガシーだから東京都に売って下さいと言ったんです。でもハリケーンは境町に売ると言うんです。

<大久保> すごいラッキーだ。

<橋本> 今まで五輪の仮設の施設はいろいろなものがありました。レガシーとして仮設を本設に残した例はないのです。今回のパリ五輪もパリで仮設を作って、どこかに本設を残そうという動きになるのではないかと。日本でやったことが世界の潮流になるのではないかと。実は、大井町にサーフィンプールがありました。五輪がコロナで1年延期になってしまったので、有明に行くはずだったサーフィンプールが、有明はマンションが建ち始まったので行く場所がなくなって、うちに来た訳です。サーフィンプールなんて言われてもよくわからないので、議会の皆さんに行ってもらいました。そうしたら、作ったほうがいいと言うから、実際に作り始まった。その人たちに境で本当にいいのかと聞いたら、境でいいと言うんです。それは、富裕層の会員が東京都に1~2万人いたので、境町なら1時間で来られるので、実際に作ってもペイできるというんです。僕は年間に数百万円の家賃をもらっています。スポーツパークのすごい例としては、境町に日本チャンピオンが移住してきています。小学生高学年の部の女子の日本チャンピオン、中学生の日本で2位の男子、インラインスケートの日本チャンピオン、小学校3年生のBMXのチャンピオンも引っ越してきます。ロサンゼルス五輪では境町出身の選手が出るでしょう。さらには5月にモンペリエでワールドカップをやりますが、そこに境町の選手が4人参加するそうです。今度、ホッケー女子も五輪が決まりました。東日本で五輪と同じホッケーコートは大井町とうちにしかありません。アルゼンチンに行った時、大統領府に呼ばれて、サッカーも強いけれども、実は一番メダルの可能性が高いのはホッケーだと言われて、ホッケー場を作ってくれと頼まれたわけなんです。帰ってきて、議会に、大統領がこう言うんだけどどうしますかと言ったら、大統領が言うんだから作ったらいいというわけです。そうしたら、コロナで大井町の本大会場が使えなくなってしまいました。

アルゼンチンのために作ったんだけど、東京から近いというので、日本代表が合宿するようになりました。そのことによって、大学のホッケー部が境町で合宿をするようになりました。実業団も境町でやっている。だから、大赤字ではなくて回るようになりました。ホッケー女子の中心選手で永井選手、その方はスペインで2年間活躍していた。その方が、五輪があるということで、境町へ移住して、パリ五輪にも境町の選手が出場するということが決定しました。

<大久保> 打つ手、打つ手が当たっているんですね。先見性というか、町長の第六感が。

<橋本> 運がいいんです。熊本の震災の際にも代理寄附という制度を編み出しました。1億円を熊本県の知事に渡したんですが、今回も石川県の件で、被災自治体は事業手続きがもうできないですから、我々がふるさと納税を全部代わりに受けて、その金額を全額持っていくという制度です。もう3億9,000万円ぐらい集まりましたから、珠洲市と輪島市と石川県に3億9,000万円持っていきます。今、同じ仕組みで140の自治体がやってくれています。おかげさまでいい仕組みは広がるので、そういう意味でもよかったと思っています。

<大久保> ロータリーも震災10日後に4トントラック3台分のものを、七尾市の中核病院に届けました。毎日、200人の透析をやっている病院ですが、とても喜んでくれました。

<橋本> ロータリーとロータリーの間でやったのでしょね。それは正解です。

<大久保> 鰻の加工場を新しくやりましたね。どんな感じですか。

<橋本> ふるさと納税は干しいもよりも鰻のほうが売れます。これは昔の名物だった鰻を復興させようということで補助金で工場を建てました。ふるさと納税はいつまである制度かわからないので、なくなった時のことを考え、宮崎と鹿児島にある日本一の養鰻屋と組み、関東のデパートとかスーパーに毎日出荷している7,000尾を我々の工場から出せたらそれを受託してということで始まりました。実際に利根川の先で稚魚が捕れるというので、それを向こうに持って行って、成長して割いたものがうちに来て、うちで5回焼いて、たれつけをやるという工場、今、稼働しています。

<大久保> 地元のお店にも卸すわけですか。

<橋本> 鰻は高いので、例えば年に1回、鰻をつかみ放題1,000円とか、そういうことで住

民に還元したいというのと、年に1回、給食に鰻を出してあげようかなと思っています。

＜大久保＞ それは贅沢ですね。

＜橋本＞ 今は梅山豚を出しています。月に1回、塚原牧場さんに協力頂いて、豚汁を出し、地元の名産を食べることを子どもたちの食育としてやろうかなと思っています。

＜大久保＞ 素晴らしいです。ドン・キホーテも盛大に呼んだのでしょうか。

＜橋本＞ ドン・キホーテとJRA。外国の方は行く所はダイソーとドン・キホーテなんです。あそこにこの2つが入っていますから、あれで事足りてしまうんです。

＜大久保＞ ワインはいつ頃から売り出す予定ですか。

＜橋本＞ ワインはもう売っています。今は万葉倶楽部などでも使ってもらっています。

＜大久保＞ 今後、町の方向をどんなふうにと思っていますか。

＜橋本＞ とにかく住み続けられる町です。子育て支援に力を入れてきましたが、一人暮らしの年配の人が多く、お子さんたちは外に住んでいて、認知症になっても要介護2なので施設に入れないとか、一人でのいるので、近所にいる本家の方が面倒を見てあげたり、そんな家がいっぱいあります。境町は小児科も誘致しました。今後内科、外科、耳鼻科等を誘致して、その周りに例えば70歳以上の人たちが転居できる住宅を作れば健康寿命全うできるのではないかと思います。これからは遺伝子で癌になりやすいという人にも、予め許可をもらい、スマートウォッチをつけることによって、活動状態をモニターする等の施策でお子さんたちも安心、さらには住んでいる人たちもお子さんたちに迷惑をかけないで済むということで、境町に住んでいたほうがいいと言われるような、最後まで住めるような町にしたいと思います。今度、墓じまい用に合葬式のお墓も作りましたから、そういったものも営業しながら、境町に住めば将来の心配

がないよと。今やろうとしているのは、重度障害者をはじめ障害者を子どもに持つ親の最期です。そういう人たちのケアをするグループの誘致までやれば、境町に住めば心配ないというところまでいくのかなと思います。また宅配ボックスがあることによって再配達もなくなる。あそこに行けば荷物が届いている。そういうこともできるようにしていけば、あるべき日本の将来がここにあると思っています。

＜大久保＞ 今、小学校は幾つあるのですか。

＜橋本＞ 5つです。

＜大久保＞ それは統合した後ですか。

＜橋本＞ まだです。2つについては、アンケートを取った結果、統合するほうがいいのではないかと。どんどん子どもが少なくなっていくので、小規模で教えるよりは、競争の原理とか、統合したかわりに何かに特化した学校にしてあげるによって親御さんが喜ぶようなことができるのではと思います。

＜大久保＞ そうですね。例えば、理数科に特化したとかスポーツに特化した学校であっても、将来困ることはないわけですよ。中学校も統廃合はするわけですか。

＜橋本＞ 小学校を統合して、小中一貫校にします。清真のサテライトを境町に作らないかという話もあるので、そうなると面白くなってきますね。

＜大久保＞ 小さくてもきらりと光る最先端の町と思っていましたが、想像以上で勉強になりました。発展途上の境町を今後もウォッチングしていきます。ありがとうございました。



PERSON

茨城県境町 町長 橋本 正裕 氏

所 属 境町役場

生年月日 昭和50年12月20日

職業・役職 境町長

最終学歴 明治大学大学院ガバナンス研究科 卒業



ガバナー公式訪問報告

幹事 **鈴木 靖雄**
(ひたちなかRC)

さる9月19日、ホテルクリスタルパレスにおいて大久保博之ガバナー、磯崎孝ガバナー補佐、高原裕地区幹事、荒川繫美地区副幹事、藤咲久光セクレタリーをお迎えし公式訪問を行うことが出来ました！

事前協議会ではクラブの現況報告、当クラブの継続事業、会員増強についてのアドバイスを頂きました。

大久保ガバナーの卓話では地区スローガンである「まちを磨けば、あなたが輝き、世界を彩る」により一層理解が深まりました。

クラブ協議会では各委員会の活動計画について大久



保ガバナーからアドバイスを頂き今後の活動に役立てていきたいと思ひます。

大久保ガバナーを始めご来訪頂きました皆様に心より御礼を申し上げひたちなかクラブのさらなる発展・活動を目指していききたいと思ひます。長時間有難うございました。



コロナ禍の影響で学びの場所を 奪われてしまった青年たちに

会長 **大曾根 理一郎**
(ひたちなかRC)

コロナ禍の影響で大きく制限されてしまった青年たちを昨年11月21日、12月5日と2回にわたり例会にお招きし、当時の様子を語っていただきました。(学校行事、修学旅行すべて中止、人とのコミュニケーションが取れず、友達出来ない環境等)

振り返ると我々も今までの日常生活が一変し、店内からマスクが消え、例会休会、周年式典急遽中止と厳しかった状況を振り返りました。そこで学びの場所を奪われてしまったコロナ世代に何かしようかと模索中、

同時期、二十歳の集い物品協賛の依頼をうけ協賛としてひたちなか市内店のプレミアム食事券220枚を贈呈。物品協賛半数近く賛同できたことはクラブとして喜ばしいかぎりです。

ひたちなか市の活性化にも大きな意味のある式典1月7日開催されました「二十歳の集い」

式典時にはこれからの時代を担っていく未来の青年たちに感謝の言葉を頂戴いたしました。

今後も地域に根差した奉仕活動を進めて参ります。





ガバナー公式訪問報告

幹事 **森田 冴子**
(水戸好文RC)

10月19日(木)、水戸三の丸ホテルに大久保博之ガバナー、井澤卓司ガバナー補佐、高原裕地区幹事、秋葉良孝地区副幹事、谷島孝明・川上英則ガバナー補佐セクレタリーをお迎えして、公式訪問が行われました。



玄関前で記念撮影を行い、10時45分からガバナーご一行と会長・幹事・会長エレクト・副幹事が参加して、協議会が開催されました。冒頭、茶菓をお出ししました。協議会では当



クラブの活動状況や特徴等を報告しました。

11時30分からの例会では、大久保ガバナーの記念卓話がありました。ガバナーの自己紹介、RI会長の今年度のスローガンや地区の目標について詳しくお話いただきました。

その後集合写真を撮り、13時からクラブ協議会を行いました。現況報告書に沿って各委員長から報告し、大久保ガバナーから適宜ご講評やアドバイスをいただきました。

14時から総評をいただきながら、ケーキとコーヒーや紅茶でティータイムとなりました。

14時15分にガバナーご一行をお見送りし、本年度のガバナー公式訪問を終えました。

とても有意義で和やかな公式訪問でした。ありがとうございました。



ガバナー公式訪問報告

幹事 **赤岩 賢二**
(水戸南RC)

10月20日(金)、大久保博之ガバナー・高原裕地区幹事、増山英和地区会計長、横須賀靖地区副幹事また、本年度は当クラブより井澤卓司ガバナー補佐、補佐セクレタリーとして谷島孝明会員・録田幸裕会員・川上英則会員を輩出しており地区関係者8名をお迎えしてガバナー公式訪問を開催いたしました。

本年度、50番目の公式訪問との事で皆様もかなり慣れていらして、高原地区幹事とも、公式訪問の前に打合せして頂き、和やかに事前協議を開催し、「見て覧(ミテラン)」の件や奉仕活動等の打合せを行い、例会の記念講演もなるべく和やかに開催し、午後のクラブ協議会へ移る事が出来ました。

本年度の委員長は、比較的若い委員長が多く委員会での問題点や改善策などガバナーを始め、地区幹事、地区会計長にアド



バイスを頂き大変勉強になりました。





ガバナー公式訪問報告

幹事 謝 佳
(茨城ロータリーEクラブ)

令和5年10月21日(土)大久保博之ガバナー、高原裕地区幹事、川名信博地区副幹事をお迎えしてガバナー公式訪問が開催されました。当クラブ例会は通常ZOOMで開催されますが、今回の公式訪問は、昨年度と同様に、百香亭筑波大学店にて対面形式で行われました。例会は、毎月第一第三土曜日の夜に行われており、今回は土曜日の昼の開催となりました。

公式訪問の前に、10時半から大久保ガバナー、高原地区幹事、川名地区副幹事、会長、そして幹事の5人により、会長幹事協議会が開催されました。会長から当クラブの会員構成と状況、又当クラブの運営について説明いたしました。大久保ガバナーから会員増強や、会員規模の維持などクラブ運営に関する貴重なアドバイスをいただきました。



協議会の後、11時半から例会が行われました。大久保ガバナーより卓話をいただきました。2023年の国際大会のご報告、国際ロータリー

の目標など、非常に分かりやすくご説明いただきました。当クラブは、国際大会への参加実績がなく、今回の写真なども含めたご報告から、開催の状況と雰囲気を感じ取ることができました。私たちの今後活動に気付きを与え、モチベーションの向上になったと思います。

昼食を取りながら、クラブ協議会が行われました。大久保ガバナーから、とても有意義な話を聞かせて頂きました。中国では「十年樹木、百年樹人」という諺があり、人を育てる大切さとかかる莫大な労力を今までと異なる観点から気づかせて頂きました。子育て中の会員を持つ当クラブにとって、大変有り難く貴重なお時間を頂きました。その中、特に「天職」という表現に胸を打たれ、短時間ではあるものの、多くのことを学びました。

最後に、大久保ガバナー、高原地区幹事、川名地区副幹事、お忙しいところご訪問いただき、貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。





ガバナー公式訪問報告

幹事 **福田 優子**
(古河東RC)

令和5年10月24日(火)大久保博之ガバナー様・高原裕地区幹事様・増山英和地区会計長様・工藤勝則地区副幹事様をホテル山水にてお出迎えして、古河東のガバナー公式訪問を開催しました。

最初の日程は「見て覧(ミテラン)」の案内をしました。まず歴史博物館の案内看板の見学と説明(古河東の40周年記念事業で設置)そして、日本初の篆刻美術館の館内見学と、学芸員による詳しい説明を受けました。その後山水に戻り、事前協議会、昼食をとっていただき、午前の日程は終了しました。



12時30分点鐘、例会、大久保ガバナーの卓話を拝聴しました。ガバナーの卓話のパワーポイントは、ガバナーの優しいお人柄を実感できました。最後のBGMでは感動してしまいました。ガバナーの卓話でロータリーについて心新たに学び直すことができました。その後記念撮影をして、14時からクラブ協議会にて、大久保ガバナーよりご指導いただきました。ご指導いただいた内容も大久保ガバナーの優しくて、温かみがあり、懐の広さの伝わるものでした。最後に会員全員でお見送りをさせていただき、和やかな、公式訪問となりました。改めて感謝申し上げます。





第1分区IM報告

第1分区 ガバナー補佐セクレタリー

小野瀬 裕

(日立南RC)

令和6年1月28日(日)国際ロータリー第2820地区第一分区のIMがホテル天地閣で開催されました。

当日は第2820地区大久保博之ガバナー、清水清パストガバナー、藤居彰一パストガバナー、大高司郎ガバナーエレクト、IMリーダー大野治夫直前ガバナー、高原裕地区幹事並びにロータリアン、ローターアクターそして日立市長代理梶山隆範副市長をお迎えして盛大にIMを挙行できましたこと大変嬉しく思っております。



IMのメインテーマは「平和の推進」として昨年度と同じく「平和を考える」としました。

一昨年のロシアによるウクライナ侵攻から2年になろうとしておりますが、いまだに終息の兆しは全く見えておりません。

また、昨年にはハマスによるイスラエル攻撃の報復措置として民間人を巻き込んだガザ地区への攻撃が続いております。

その様な状況を見て今回は国境なき医師団日本ロジスティシャン(物資調達管理調整員)として活躍されている松田隆行様をお呼びし国境なき医師団として参加した経験をもとに医療援助活動とスタッフの現地生活に関する幅広い業務を担当したお話を頂きました。

また、一昨年にウクライナから避難され日立さくら日本語学校で学び昨年の4月より大阪の専門学校に通われているアナスタシアさんにもウクライナでの出来事そして日本での生活等に

ついてお話を頂きました。

毎日世界のどこかで紛争が起きている現状を考え我々ロータリアンが直接関わる事はできませんがロータリアンとして何が出来るかを模索し、世界平和について考える良い機会になったと思います。

第2部の懇親会は4年ぶりの開催となりました。NPO法人ふきのとうの会メンバーによる太鼓演奏に始まり、アトラクションでは秋田民謡歌手の藤原美幸様によるコンサートが催され、おおいに盛り上がり分区ロータリアンの友好と親睦を深めることができました。また、当クラブ会員が「なまはげ」の扮装をして会場内を練り歩き寄附金を募ったところ多額の寄附金が集まり全て茨城新聞を通じて1月能登半島地震の被災者に贈ることができました。



最後にIM開催にあたりご指導、ご協力頂きました第1分区IMリーダー大野治夫パストガバナー、第1分区内会長、幹事皆様、第1分区各クラブの皆様心から深く感謝いたすと共に御礼申し上げます。





第4分区 I M報告

第4分区 ガバナー補佐

高橋 采子

(古河東RC)

立春前の節分、本年2月3日(土)に古河市ヤクルトはなももプラザにて第4分区 I Mを大久保博之ガバナー、高原裕地区幹事、高橋賢吾 R L I 地区代表ファシリシーテーター (F T) をお迎えして分区内ロータリアン総勢 130 名にて開催しました。前年9月5日の第1回を皮切りに5回の I M実行委員会で協議を重ね、今回の I Mのターゲットを「ロータリアン みんなのための みんなで学ぶ R L I」と題しまして、本年度の地区目標にも掲げられております R L I (Rotary Leadership Institute) 方式を取り入れ参加者全員でロータリーについて学ぶ機会を設けました。ロータリー歴の長短は分け隔てなく、4分区の会員同士が意見交換をし、ロータリーの勉強をして学び直し(リカレント)になればと念入りに準備を進めて参りました。

当日は、高橋 R L I 地区代表 F T ほか地区の9名の F T の方のご協力を頂きまして、1グループ12人程度を10グループに分け、それぞれのテーマに沿って全員が話す機会となり、I Mの



ターゲットに沿った全員参加型の「学びの場」を実施することができました。これで第4分区では4年前に続き2回目となりまして、前回の R L I は PART 1 (初級) でしたが、今回は1段階上がって PART 2 (中級) となっており、やや難しく思えるのか、途中、首を傾げる会員もあり、特に財団は難しいという意見がありました。しかし参加した会員の大多数からはおおむね良い評価を頂きました。まとめとして、高

橋 R L I 地区代表 F T に講評を、大久保ガバナーに総評頂きました。お二人方からは「大変素晴らしい」とお褒めのお言葉を頂きました。



そして場所をホテル山水に移しての懇親会となり、皆様と親睦を図る楽しいひと時となりました。アトラクションではマジックショーを企画し、大いに盛り上がり、沢山の料理に笑いと歓声が飛び交い、会員相互の交流が行きかう I M の心髄となりました。



また本年元旦に起きた能登半島地震被害に対して当日 I M 開会前に義援金を募り、地区実施の R I D 2610 への救援物資支援と支援金の一助となればと送金をしております(67,326円)ことをご報告申し上げます。ご協力ありがとうございました。



第3分区IM報告

第3分区 ガバナー補佐

井澤卓司

(水戸南RC)

第3分区IMは「DEI ロータリーの新しい流れ」をテーマに2024年2月17日(土)に大久保博之ガバナーと高橋靖水戸市長を来賓に水戸プラザホテルで開催しました。終了後に開催された、登録者212名の大懇親会も区内の親睦を深める有意義な場となりました。

講師には、藤居彰一IMリーダーを通じて、新井和雄地区ファシリテーターから前川裕奈さん(1989年生まれ 慶應義塾卒業後、三井不動産勤務を経て早稲田で国際関係学の修士号取得。JICAの仕事でスリランカと出会い、外務省の専門調査員として駐在)をご紹介頂きました。記念コンサートは、篠原勉実行委員長の推薦により東海村出身で、緑岡高校、東京芸大卒のオーボエ奏者の山田涼子さんです。



第3分区活動報告では、親睦ゴルフ大会(2023年10月27日 サザンヤードカントリークラブ 参加者90名)は米田英雄実行委員長が行いました。ロータリーデーの分区統一活動は、茨城県サッカー協会主催のIbaraki Next Generation Cup 2023(2023年12月24日ケーズデンキスタジアム)とコラボして実施しました。青少年の健全育成及び、

ポリオ根絶の啓発・募金活動(総額251,628円をロータリー財団に寄贈)について、前夜祭を含めた事業報告は及川讓委員長が担当しました。

基調講演はスリランカでフィットネスウェアを製造販売するkelluna社の経営者で社会起業家の前川裕奈さんです。

ルッキズムからDEIを考える有意義な講演でした。外見至上主義と嗜好の多様性は難しい問題ですが、容姿を理由に機会を奪われる

ことのないような公平性の高いインクルーシブな社会になっていくことを望みます」と新井PDGがSNSでコメントされました。これに対し100名を超えるロータリアンから共感のメッセージが届き、他地区からも講演の依頼があったそうです。





第5分区 I M報告

第5分区 ガバナー補佐

軽部 守彦

(下妻R C)

去る、2024年2月24日国際ロータリー第2820地区第5分区インターシティーミーティング（I M）がガバナー大久保博之様、第5分区I Mリーダー高橋賢吾様、パストガバナー萩原亢雄様、同じく新井和雄様、地区幹事高原裕様、名誉会員でもある下妻市長 菊池博様、開催地である八千代町長 野村勇様及び第5分区内各クラブロータリアン盛大に開催されました。

今回のI Mは5部構成になっていて、第1部の開会セレモニーから始まり、第2部では世界平和を願い、駐ウクライナ大使セルギー・コルスンスキー氏による特別講演を行っていただきました。



ロシアの侵攻開始の当日であらゆる方面からの取材や講演、多忙な日にも拘らず茨城に来たのは、新井パストガバナーを中心に、

この第2820地区がウクライナに最初に支援し被災者用仮設住宅を提供したからだそうです。講演の後は、昨年11月に下妻ロータリークラブを中心に「夢キャンドルナイト2023実行委員会」で行われた、「キャンドルナイト2023」で寄せられた賛同金の一部を、駐ウクライナ大使へ寄贈しました。

第3部では、これからのロータリーの研修形式が、トレーニングからラーニングに変更になるにあたり、それを理解するのに一番わかりやすい方法である、ロータリー・リーダシップ研修会（R L I）の説明を、高橋賢吾I Mリーダーに分かりやすくパワーポイントを使いながら、



お話しいただきました。次に、各クラブから2名のパネラー研修者として登壇いただき、地区R L I委員でファシリテータでもある私が、進行しながらR L Iのデモンストレーションを見ていただきました。これからのロータリーの新しい形を理解していただけたと思います。

第4部では、閉会セレモニーとして、大久保ガバナーや高橋I Mリーダー、萩原パストガバナー、新井パストガバナーから大変実のあり、素晴らしいI Mだったとお褒めの言葉を頂きました。第5部では、4年ぶりに懇親の場を提供しました。最後に「手に手つないで」を一緒に歌いクラブを超えた同じ地域内の同志で交流と親睦を深めたと思います。



最後に、企画設営から運営に協力していただいた、下妻R Cの仲間、関係者の皆様に心から感謝いたしますと共に御礼申し上げます。



第1分区 豪雨災害時における ポリオ募金活動

第1分区 ガバナー補佐

鹿志村 高 道

(日立南RC)

今年度大久保ガバナーの地区方針の1つであります、分区でのよりインパクトのあるポリオ根絶の啓蒙イベントの実施という事で、第1分区として、早くから行政の関与のない日立市の常陸多賀駅を中心に行なわれる、市民の祭りの「よかっぺまつり」において運動しようと決めていました。私が所属しております日立南ロータリークラブの会員の何人かが実行委員の中心のメンバーでいるからでした。「よかっぺまつり」はコロナ禍で4年振りの開催となりましたが、毎回9月の第二週の土曜日に開催という事が決まっております。特に今年は第50回の開催という事で、実行委員会でも何とか無事開催したいという思いがございました。そのため私はガバナー事前訪問の時に、各クラブに協力を強く呼びかけていました。

ところが前日の9月8日(金)の午後6時頃、日立市、高萩市、北茨城市にかつてない豪雨が襲いました。まさに第1分区のクラブの地域でした。

次の日の早朝、各クラブから開催是非の連絡がありました。実行委員会も苦渋の決断の末、実行するという事となりその旨をお伝えし、無理のない形での協力を御願いました。

何せ常磐線は不通。そして常磐高速道路も通行止めという状況でした。その中でロータリー

メンバーの中にも被災された方、又、復興にあたらなければならない方がいる中で、日立市内のロータリアンの方々が、道路が大渋滞する中を駆けつけてくださいました。一般市民の方に声をかけて、ポリオ根絶を訴えてくださいました。その結果、用意しましたうちわ1000個、ティッシュ2000個を配って、市民の方にポリオ根絶の必要性を感じていただけたと同時に、ロータリー活動を認識いただけたと思っています。その後、当日は参加出来なかった高萩ロータリークラブの方からも、事前訪問時に募金をいただきました。

このように、災害時において、募金箱をぶらさげて活動して下さったり、うちわ・ティッシュを配りながら市民の方々にポリオ根絶を訴えてくれたロータリーの皆様方、そしてテント張りから後片づけ、ゴミの回収までを行なってくれた日立南ロータリークラブのメンバー、本当にありがとうございました。



第1分区のポリオ根絶の募金活動は、以上のような状況下で行なわれましたが、第1分区のロータリーメンバーのおかげで大成功に終える事が出来た事を、御報告させていただきます。



第3分区 ロータリーデーの 開催報告書（ポリオ根絶イベント）

第3分区 ガバナー補佐

井澤卓司

（水戸南RC）

【経緯】

茨城県サッカー協会よりアクションが有り、（育成いばらき）にロータリークラブのお力添えを頂きたいとの申し出が有り、社会奉仕・青少年奉仕・公共イメージの観点から協賛することとなりました。

【取組内容】

- 1) 【2023年国際ロータリー 2820地区第3分区
ポリオ根絶募金活動 統一事業】
- 2) 茨城県サッカー協会が主催となる IBARAKI
Next Generation Cup（育成いばらき）に
協賛
- 3) 選手、サッカー関係者、自治体との交流、
公共イメージ戦略
- 4) 青少年奉仕活動、水戸市少年団への参加、
ポリオ根絶Tシャツ着用での公共イメージ
戦略



【ロータリーデーの実績報告】

「活動内容」

- * 茨城県内青少年育成及び奉仕活動
→水戸市サッカー少年団への依頼
水戸サッカー少年団（水戸SSS）
双葉台サッカー少年団（双葉SSS）約35名
エスコートキッズ・選手との写真撮影・グラ
ンドにて選手との交流など
- * RC公共イメージアップ、広報活動
→RC、ポリオオリジナルTシャツ製作
少年団子供達、会員が着用し募金活動、当日
参加の皆様に着用にて広報活動

*第3分区ロータリーデー開催

→ポリオ根絶募金活動

第3分区メンバー30人にて会場入り口前
にて募金活動

収支活動報告は別紙参照

「成果」

*レセプションにて日本サッカー協会及び関係
者各位との交流（目録・ご挨拶）

*新聞、報道等による広報活動

*当日、ポリオ根絶募金、販促イベント等

*障がい者及び少年団等の参加（青少年奉仕活動）

*子供達との試合観戦

以上のような効果・成果が得られたのではな
いかと思います。



「支援予算」

*茨城県サッカー協会への支援金

合計 ￥800,000

年の瀬のお忙しいところ、大久保博之ガバ
ナー、高原裕地区幹事、水戸RC会長・幹事、
水戸西RC会長・幹事、友部RC会長・幹事、
水戸東RC会長・幹事、水戸さくらRC会長・
幹事、水戸好文RC会長・幹事、第3分区会
員の皆様にはレセプションからポリオ根絶募
金活動、寒い中色々、準備も整わない中、
ロータリーの友情に包まれ、大成功を収め
る事が出来たのも皆様のおかげです。改
めましてありがとうございました。



第11回水戸アールブリュット展を終えて

アールブリュット実行委員会 委員長

川上 美智子

(水戸好文RC)

障がいをもつ子のアート展「第11回水戸アールブリュット展」が水戸京成百貨店8階の展示スペースで2月23日(金)～2月29日(木)の1週間にわたり開催されました。今回は第11回にあたり、新たなスタートとして審査委員長が陶芸家の井上壽博先生(水戸RC)から若手陶芸家としてご活躍のご息子の井上英基先生に代わりました。アールブリュット(Art Brut)とは、生(なま)の芸術とも言われ、フランスの画家、ジャン デュブッフエが提唱した新しい美術ジャンルで、既成概念や既存の文化の影響を受けずに制作された絵画、即ち精神障害をもつ人や独学で画く人たちによる美術作品を指します。子育て支援を奉仕活動の軸としている水戸好文ロータリーでは、ロータリー財団補助金を活用して11年間、本事業に力を入れ続けてきました。



今回も、水戸市内6つの特別支援学校の幼児・児童・生徒が制作した枠に囚われないユニークな発想が遺憾なく発揮された立体、平面の作品が30点展示されました。展示の脇には、担当の先生が書かれた思い入れと愛情たっぷりのコメントが付けられています。そこからは、子どもたちが長い時間をかけて、一つひとつ自分の拘りを作品の中に籠め取り組んだ様子が窺えます。既存の文化芸術を超えた創造性豊

かな作品が揃い、甲乙つけ難く審査は難航しました。

審査委員長賞には水戸高等特別支援学校3年生、藤枝百合愛さんが描かれた大作の油絵「butterflies dance on the lily」が選ばれました。その他、行政や、団体、企業のご協力により、ガバナー賞、



県知事賞、県教育長賞、水戸市長賞、水戸芸術館賞、NHK賞など多数の賞を出すことができました。期間中、ロータリアンの皆様にもお忙しい中ご高覧賜り感謝申し上げます。

水戸好文ロータリークラブの特色ある奉仕活動として今後も障がいのあるお子様が喜びや達成感を感じていただける支援に力を入れて行きたいと思っております。



米山奨学生終了式スピーチ

米山奨学生 **李 光 宗**
(古河中央RC)

みなさん、こんにちは。古河中央RC所属、東京藝術大学の李光宗と申します。まず、二年間、お世話になりました。

先日、「李さん、米山奨学生としての感想を3分くらいで話していただきたい」と、ご連絡をいただきました。「分かりました」と返信しましたが、この二年間の出会い、思い出を振り返りながら、二年間って3分だと、絶対足りないかなと思いました。でもとても嬉しかったです。

- ・初めて奨学金受かって、面接の緊張と、合格の喜び、今でも忘れられないです。
- ・オリエンテーションまるで昨日のことみたいで、奨学生同士、カウンセラーの舘野さん、野本さん、藝大国際課の先生、委員会の方々と出会い、ファミリーができたという安心感も忘れられないです。
- ・たくさんの日本文化研修イベントに参加し、他の奨学生や委員会の方々と交流し、楽しみながら、日本文化の理解をより一層深めました。
- ・特に米山梅吉記念館の研修で、自分が今、どのような文脈の中にいる、これまでの歴史と、これから自分がどのように繋げていくとよく考えました。

奨学金をいただくことというのは、お金を得ることだけではなく、人、人からの感情、経験、自信、そして、私にとって一番大切なもの、勇気を得ることです。

自分の勘を信じて、まだ自信がなくてもいい、分からないけどとりあえず踏み出すという勇氣です。その勇氣でやってたことは、自分の成長の源だと思います。

母国から離れ、目標を達成するために、夢を

叶えるために日本での勉強、研究、活動、実に変なことなんです。その大変なことをやろうとしてる私たちを、米山奨学会が支えています。見守ってます。だから私たち自ら勇氣が湧きます。やって、成長します。

私、学内の研究以外、社会的な芸術活動もやっています。小さいギャラリー展示会からコンペで勝ち取るアートエキシビション、アートプロジェクトまで、賞をとったり、作品が売れたり、色々あります。昨年、F1GP、三重県鈴鹿サーキットに行ったSDGsアートイベントで、ドイツのF1チャンピオン、セバスチャン・ベッテルと私が日本伝統的な木造技術を用いて、環境保護のオブジェを作っていました。その後、全F1ドライバーを通して世界に発信し、各国のメディアに取り上げられました。そのつながりで、また来年、大阪万博にもドイツ、セバスチャンチームとコラボして、アートプロジェクトをやる予定です。

自慢のように聞こえますが、長い日本留学生活の中、米山奨学会は私のアイデンティティ形成の一部になってますので、子供がうまくやってるのを親に報告したいような当然なことです。

いかに感謝の意を尽くすより、自分の夢を叶えることこそ、私の恩返しであり、支えてくれたみなさんに、支援の意味を与えます。

まだまだですが、私は母国と日本、世界への懸け橋になります。そしてそれは将来ではなく、「今」です。

奨学生のみなさん、共に頑張りましょう。ロータリアンのみなさん、ありがとうございました。

二年間、お世話になりました。また、いつか、どこかで、会いましょう。

(2024年3月2日(土)つくばにて開催)



地区チーム研修セミナー報告

地区チーム研修セミナー実行委員長

江 尻 寛

(高萩RC)

3月3日(日)、日立市のホテル テラス ザ スクエア日立において高萩RCのホストにより、次年度のガバナー補佐、地区総括委員長、地区委員の皆様に対し、地区リーダーとなるためへの準備の研修会が開催されました。



セミナーは午前の本会議において、大高司郎ガバナーエレクトは、国際協議会の報告から始めステファニーA. アーチックRI会長エレクトの提唱するテーマ「ロータリーのマジック」を紹介し、地区スローガンBE THE INSPIRATION “元気な一歩、共に成長するクラブの力”を提示され、「居心地のよく、積極性を引き出すようなクラブ」となるため、クラブの会員増強や活性化を支援すると述べられ、地区



目標についても詳しい説明がありました。

午後からは各委員会ごとの分科会が開かれ、これから開催される2大セミナーの進め方、各委員会の研究会、更に各クラブへの助力・支援等今後の活動について熱心な協議が行われました。

午後の本会議では、各ガバナー補佐からそれぞれの抱負や分区運営方針の発表がありました。続いて各総括委員長から方針等研修成果が報告されました。最後に大野治夫地区ラーニングファシリテーターの総評をいただき終了しました。



今回の研修会は、幸いにもここ数年続いたコロナ禍が治まり、皆様が一堂に会して開催できたこと、地区ラーニング委員の方々からも様々なご指導をいただき、大高年度にクラブとロータリアンを支援していくための地区の指導体制がしっかりと構築されたと確信しております。

最後に、コ・ホストとしてご協力をいただいた日立港RCと北茨城RCの皆様、ご参加の皆様にご報告申し上げます。



2024 - 2025年度会長エレクト研修セミナー報告 2日間、熱気あふれるラーニングを実行

実行委員長 **小 森 勇 一**
(高萩RC)

きらきらと光る海を眼下に日立駅前のホテルテラス ザ スクエア 日立において、去る3月23日～24日、2024 - 2025年度会長エレクト研修セミナーが開催された。早朝より2時間かけてご参集いただいた会長エレクト、パストガバナー諮問委員、ガバナー補佐、地区役員、総括委員長の皆様が一堂に会し、10時30分に開会した。

点鐘直前に、2分間の動画「世界を変える行動人」を視聴していただいたが、これは次年度テーマ「ロータリーのマジック」を考える上で示唆に富む導入であった。



大高ガバナーエレクト テーマと方針を提起

第1日は開会行事に続き、大高司郎ガバナーエレクトが「RI会長テーマと地区運営方針」を提起し、熱意を込めて説明した。続いて、大野治夫地区ラーニングファシリテーターから「クラブ会長の責務と役割」の講話があって、研修セミナーの基本的な方向が示された。午後から

は、クラブの運営、活動について具体的テーマが設定され、まずクラブ優秀賞（ロータリー賞）へのチャレンジを大河原浩地区幹事が説明。クラブ定款細則の管理、戦略計画の策定については、国際ロータリー規定審議会代表議員、高橋賢吾パストガバナーから丁寧に説明をいただき学習した。それに続いて、クラブ奉仕から米山記念奨学会まで各総括委員長から問題提起を受け、16時40分、学習を深めて終了した。休む間もなく、盛大に懇親会を開催。英気と絆を強固にし、19時「手に手つないで」を高らかに、第1日を終了した。

第2日は、第2620地区パストガバナー甲府RCの高野孫左エ門様（ロータリーの友委員会委員長）の「元気なクラブを目指して」をテーマにご講演をいただき、これからの課題と方向について、多角的な視点から次年度に直結する感銘深いお話で、学習を深めることができた。続いて、ガバナー補佐の司会で各分区毎の協議を実施、前夜懇親会での決意表明に続いて、会長エレクト皆様の意欲の高まりを実感し、正午に閉会した。



学習する本会議場

2月会員増強報告

分 区	クラブ名	会員増強報告 (単位/人)								
		本 年 末 会員目標	期 首 会員数	2月実績		本年度累計			2024年 2月末日	うち 女性
				入会	退会	入会	退会	純増		
第1 分区	日立	74	72	0	0	2	2	0	72	3
	日立南	34	32	0	0	3	1	2	34	3
	高萩	30	26	0	0	1	0	1	27	0
	北茨城	28	25	0	0	1	0	1	26	3
	日立港	35	33	0	0	2	2	0	33	3
	日立北	30	28	0	0	0	1	-1	27	0
	日立中央	20	18	0	0	1	1	0	18	2
合 計	251	234	0	0	10	7	3	237	14	
第2 分区	那珂湊	25	23	0	0	0	2	-2	21	1
	常陸太田	31	29	0	0	1	0	1	30	6
	大子	23	21	0	0	0	0	0	21	2
	大洗	18	15	0	0	3	1	2	17	0
	勝田	27	25	0	0	1	0	1	26	4
	東海那珂	34	32	0	1	3	1	2	33	0
	ひたちなか	23	21	0	0	0	0	0	21	2
合 計	181	166	0	1	8	4	4	169	15	
第3 分区	水戸	125	124	0	1	9	5	4	128	5
	笠間	17	15	0	0	1	0	1	16	0
	水戸西	73	71	1	0	2	3	-1	70	13
	水戸南	80	77	1	0	3	0	3	80	12
	友部	21	17	0	0	1	0	1	18	0
	水戸東	67	62	0	1	2	3	-1	61	4
	水戸さくら	49	36	1	0	12	4	8	44	6
水戸好文	18	16	0	0	1	0	1	17	16	
合 計	450	418	3	2	31	15	16	434	56	
第4 分区	古河	54	51	0	0	1	2	-1	50	4
	境	32	29	0	0	2	0	2	31	0
	岩井	9	6	0	0	2	0	2	8	1
	古河東	53	51	0	1	1	2	-1	50	15
	古河中央	50	46	0	0	2	1	1	47	5
合 計	198	183	0	1	8	5	3	186	25	
第5 分区	下館	35	29	0	0	1	2	-1	28	3
	結城	26	24	0	0	0	2	-2	22	0
	真壁	16	15	0	0	0	0	0	15	0
	下妻	64	61	0	0	1	0	1	62	6
	しもだて紫水	53	51	0	0	1	0	1	52	4
	筑西きぬ	16	11	0	0	1	0	1	12	2
	岩瀬	22	20	0	0	0	0	0	20	0
合 計	232	211	0	0	4	4	0	211	15	
第6 分区	石岡	18	17	0	0	0	0	0	17	0
	土浦	51	48	0	0	0	3	-3	45	8
	土浦南	89	87	0	0	1	1	0	87	7
	つくば学園	103	101	0	0	3	4	-1	100	0
	石岡87	26	24	0	0	1	0	1	25	0
	土浦中央	13	11	0	0	0	0	0	11	0
	つくばシティ	58	53	0	0	2	1	1	54	8
	阿見	16	13	0	0	2	0	2	15	1
つくばサンライズ	14	13	1	0	1	1	0	13	5	
合 計	388	367	1	0	10	10	0	367	29	
第7 分区	竜ヶ崎	35	34	0	1	0	1	-1	33	5
	水海道	55	53	0	0	0	0	0	53	2
	取手	18	16	0	0	0	0	0	16	0
	牛久	39	38	0	0	0	0	0	38	3
	守谷	5	3	0	0	0	0	0	3	0
	龍ヶ崎中央	10	7	0	0	2	0	2	9	2
合 計	162	151	0	1	2	1	1	152	12	
第8 分区	鉾田	30	29	0	0	0	1	-1	28	0
	鹿島臨海	45	44	0	0	0	2	-2	42	5
	玉造	11	8	0	0	0	0	0	8	1
	波崎	15	13	0	0	0	0	0	13	1
	鹿島中央	22	20	0	0	1	0	1	21	2
合 計	123	114	0	0	1	3	-2	112	9	
茨城Eクラブ	13	11	0	0	0	2	-2	9	3	
地区合計	1998	1855	4	5	74	51	23	1877	178	

※期首とは7月1日の午前0時時点、末日とは当日末日午後12時時点とする。

新会員紹介


 古河東RC
中村 敦

- 入会日
2024年1月9日
- 職業分類
歯科医師


 つくばサンライズRC
伊賀 秀文

- 入会日
2024年2月1日
- 職業分類
鍼灸師


 水戸南RC
山崎 克彦

- 入会日
2024年2月2日
- 職業分類
飲食業


 水戸さくらRC
石森れいこ

- 入会日
2024年2月26日
- 職業分類
アナウンサー


 水戸西RC
金田 友好

- 入会日
2024年2月28日
- 職業分類
印刷機材・産業機械販売


 東海那珂RC
大牟田弘文

- 入会日
2024年3月1日
- 職業分類
原子燃料加工

■ 訃報 謹んでお悔やみ申し上げます。


 水戸東RC
皆川 憲弘

- (享年 85才)
- 1940年1月15日生
- 2024年2月8日ご逝去
- 1986年7月3日入会
- 外科医

- ロータリー歴
2005-2006年度第21代会長

- 寄付歴
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー第8回
ベネファクター
米山功労者メジャー・ドナー第10回


 古河東RC
小山 幸子

- (享年 74才)
- 1950年1月31日生
- 2024年2月11日ご逝去
- 2014年8月12日入会
- 看板業

- ロータリー歴
親睦活動委員長
青少年奉仕委員長
雑誌委員長

- 寄付歴
ポール・ハリス・フェロー
米山功労者マルチプル


 竜ヶ崎RC
渡利 千里

- (享年 90才)
- 1933年11月19日生
- 2024年2月17日ご逝去
- 1990年9月4日入会
- 耳鼻咽喉科医

- ロータリー歴
1999-2000年度第41代会長
2011-2012年度第7分区ガバナー補佐

- 寄付歴
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー第4回
ベネファクター
米山功労者メジャー・ドナー第12回

スケジュール

5月14日(火) 地区大会記念ゴルフ大会
(大洗GC)

5月25日(土) - 29日(水) 国際大会
(シンガポール)

6月1日(土) 第二回会長・幹事会
(水戸京成ホテル)

6月23日(日) 基盤向上セミナー
(ホテルテラス ザ スクエア日立)

(私論) 働くという意味と経済の発展

ガバナー 大久保 博之

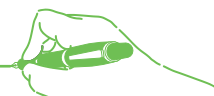
思想家内村鑑三は「日々の職務を忠実に実行する中で徐々に自分に与えられた使命がなんであるのかが見えてくる。それ故、人生の本当の目的は『天職』を見つける旅路である。(田中久夫著 ロータリークラブに入る)」という言葉を残しています。人は幸せになるために働くのであり、(あえて申しますが)必ずしも生産性ばかりでなく、意味ある人生の為に働けるのが今後の時代だと思います。

一にも、二にも人への投資であると思います。それもデジタル教育などと言う範囲を超えて、芸術や感性を磨く教育を含め、年齢、性別、収入にかかわらず志ある人は教育にアクセスでき、多様な働き方ができること。その人なりの課題を見つけ、自己実現を図れるようにすること。そうした精神的に豊かでクリエイティブな国民が多い国ほど強い国力を持てると思うからです。

若い人にはどんどん起業してほしいと思います。かつてはハングリー精神で働きましたが、今は自己実現や、社会の課題解決の為に起業家になっていただきたいのです。

安くて良いものを大量に売って社会を変えていくのは大企業の役割。中小企業はこだわりの商品、秘伝のたれや、ニッチなマーケットを開拓してとにかく高く売る。付加価値を高めることだと思います。

渋沢栄一翁は自立自尊と民の発展を説きました。政商のような生き方は厳に慎むべきだと思います。



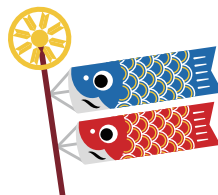
LINE 公式アカウント

友だち募集中

第2820地区公式LINEを開設いたしました。
LINEアプリより友達登録をしていただくと、
地区からのお知らせや月信がご覧いただけます。

@103mbrqx

LINEの「友だち追加」から、ID検索するか
QRコードをスキャンしてください



茨城ガイドブック「見て覧 (ミテラン)」入手方法について

下記の内容をご覧ください、ガバナー事務所「見て覧 (ミテラン)」専用口座にご寄付をお願いいたします。

- 「見て覧 (ミテラン)」入手方法：5冊単位でお受けいたします。(HPにて申し込み書掲載あり)
1冊あたり 1,000 円の寄付+送料 370 円 (5冊毎)
(例) 10冊ご注文の場合 10,740 円をお振込みをお願いいたします。
- 送金明細書をガバナー事務所に FAX かメールにて送信をお願いいたします。(FAX: 029-246-5766)
- 送金先：国際ロータリー第 2820 地区 ミテラン会計長 増山 英和
(コクサイロータリー ダイニセンハッピークニジュウチク
ミテラン カイケイチョウマスヤマヒデカズ)
常陽銀行 本店営業部 (004) 普通 3916065
- 「見て覧 (ミテラン)」の発送元は「戸田産業株式会社」となります。

編集後記

校閲作業は新聞、雑誌、書籍など活字を扱う媒体では重要な仕事です。月信も同様。新聞記者時代は何度も校閲部に助けられ、訂正を出さずに済んだ経験があります。いまだに夢に出て来ます。さて、校閲の極意をご存知でしょうか。最も大事なものは「間違いが絶対にあるはず」と決めつけて読むこと。そして「校」と「閲」を分けて点検することです。「校」は誤字脱字探しで、「閲」は事実関係を確認することです。例えば、まだ生きている人を故人の〇〇さんと表記したら大変です。

校閲担当は最初の読者と言われます。まだ表に出ていない宝ものを発見するチャンスもあるのですから。(北島)

